

## 第6回「認知症対策について」

秋田地域振興局福祉環境部

部長 諸富 伸夫



我が国では、高齢者の4人に1人が認知症又はその予備群と言われており、今や誰もが関わる可能性のある身近な病気です。そして認知症の方が安心して暮らせる社会の実現は、今や世界共通の課題ですが、最速で高齢化が進む我が国では、「認知症施策推進総合戦略」いわゆる「新オレンジプラン」を策定し、その実現に向けて様々な取組を進めております。とりわけ、国内でも最速で高齢化が進む秋田県こそ、社会を挙げた取組のモデルを示す必要があります。その実現のためには、認知症の方に寄り添い、より良く生きていただけるよう支援していくことが必要であり、可能な限り早い段階から多くの職種が連携して支援することが重要です。

特に高齢化率が年々上昇している秋田地域においては、認知症高齢者の数も同様に増加しているものと推測され、認知症施策のこれまで以上の充実が求められております。

こうした背景を踏まえ、当福祉環境部では、新聞、ホームページへ認知症関連記事を継続的に掲載し、その総集版をリーフレットとして配布することで、認知症への理解を深めて頂くように努めております。来年度も、認知症の方の視点に立った施策を推進して参ります。

